

## 北杜市立小中学校適正規模等審議会 会議録

1. 会議名：第5回 北杜市立小中学校適正規模等審議会
  2. 日 時：平成20年7月17日（金）午後3時30分～午後4時29分
  3. 場 所：北杜市役所 東館特別会議室
  4. 出席者：  
（委員）小澤龍一・小泉 徹・堀内 弘・藤原香代子・三井善成・小尾隆一  
清水正之・原 誠・中山英毅・原 堅志・大柴美香・秋山治雄  
小宮山英人・大島正道・小澤三月・日向 勝・武井美恵子  
  
（事務局）櫻井教育長・小林教育次長・進藤教育総務課長・伊藤学校教育課長・  
原生涯学習課長・中込学校教育担当リーダー・野牛嶋総務担当リーダー・  
篠原総務担当
  5. 審議会委員の紹介 小淵沢地区区長代表 清水 正之様
  6. 議 題 1) 資料の確認・説明  
2) 学校現場視察について
  7. 公開・非公開の別；公開
  8. 傍聴人の数；無
- 15時38分開会 —

（司会：小林教育次長）開会に先立ち互礼をしたいと思います。

— 互礼 —

（議長；小澤会長）審議会に入る前に、本日は暑い中を長坂小学校、日野春小学校、須玉小学校とそれぞれの目的を持った3校を視察してきたわけですが、非常に意義の大きいことであり、また今後もこういう機会を事務局に計画のお願いをして審議に入りたいと思います。学校長もPTA役員もおりますが、学校現場の生の声を聞くのも大きな意義のあることかと思えます。

それでは議事に入ります、事務局先ず資料の確認をお願いします。

(事務局) 本日の委員名簿に、名前のフリガナに錯誤がありましたので訂正とお詫びを申し上げます。

小中の適正規模の中間報告を区長会での説明をとの事でしたので、市内8地区の区長会に説明をしてまいりました。この中での御質問・御意見・要望等が多かった事柄を一覧表にしてみました。説明会后に地域に持ち帰って話し合ってもらい、意見等がございましたら地域の委員さん、又は総合支所長までにと依頼したところでございます。

次のページになりますけれど、夏休みが終わりましたなら中学校単位で小学校を含めて小中学校のPTAの方々に説明をするということで、日程表に基づいて実施予定でございます。

そして、前々から依頼されておりました児童生徒通学時間調査結果表ですが、児童生徒が学校までどのくらい時間を掛けて通学してくるのか、それを手段別に集計してみました。徒歩、自家用車、スクールバス(路線バス)ですが、バスにつきましては、バス停までの徒歩時間も集計してありますので、参考にしてください。

それから前回の議事録の6頁の差し替えをよろしくお願いします。  
最後に委員さんよりの新聞の切り抜き記事が一枚あります。

(議長：小澤会長) 資料の中で児童生徒通学時間調査結果表は次回からの通学区の重要な資料になるので、併せて次回までに目を通して置いてください。

それでは今日は学校視察を終えましたので、委員さん方に各々ご感想を頂いて、次回の日程を決めて終わりにしたいと思います。

(委員) 私は高根地区ですけど、違う地域の小学校を見させてもらったわけですが、やはり一番印象に残ったのは日野春小学校の人数の少ない現状でした、私は人数の多いところに子供を預けておいた方がいいという意見に賛成なので、今日は日野春小学校に驚きました。

(委員) 今日は普段と違って、適正規模とか、耐震問題とかの視点から見る事が改めて大事だなと思いました。

(委員) 長坂小学校ですが、以前にも北館の柱が露出しているところは、話題になっていましたが、今日改めて見まして本館にひび割れがありました。校長先生に聞きますと東西に渡って傾斜が発生して、ボールを置けば転がっていってしまうと言う厳しい状況にあるとのことです。

日野春小につきましては、かつては各クラス20人以上いた事もあって、壁の掲示物にしても、寂しい物があると思いました。人数が減ったなりにきめ細やかな指導が出来る事は素晴らしいことですけども、その辺から12条という設置基準線が出来ているのかなと思いました。

須玉小につきましては20人以上30人が混在して2クラス以上ある訳ですけど、今後の上限は何人なのかなと考えてしまいました。

(委員) 長坂小の児童の安全を考えて教室を移動するとのこと、学校、教育委員会のご苦勞に感謝します。

事務局に耐震についての資料をお願いしたいのですが、数値だけで結構ですので、もし出来れば専門家の所見の様な資料を見せて頂きたい。また、耐震補強をするときの費用の試算があれば見せてもらいたい。どのぐらい急いで補強しなければならないかに関わって来ますのでよろしくをお願いします。

日野春小学校について言いますと、廊下に作文の添削がありましたよね、先生の赤で、これが小さい学校のメリットかなと思いました。

(委員) 改めて10人以下のクラスを見て、須玉小と比べてしまうと少し寂しいかなと感じました。やはりある程度の人数は必要だと感じました

長坂小の耐震の問題は、なるべく早く対応して頂けるといいなと思いました。

(委員) 5回に渡って審議してきたことが、今日生の声を聞いて、ほぼ正当なのかなと思いました。これからも真剣に審議していきたいと思います。

(委員) 1人の親として子供達が安全で、小学生らしい時間を過ごせられるような環境を作ってあげなければいけないと言う思いがいっぱいです。

自分の子供に置き換えてみましても、人数が多くても少なくても「こんにちは」と生き活きと元気に挨拶するのを聞くと、やはり子供は皆同じなのだなと思いました。

(委員) 一つ心配に感じたのは小規模校の子供達が、あの須玉の30何人かの中にポンと入れられたとき、なじむことが出来るのかと言うことが心配になりました。多少ウォーミングアップ的な期間も必要ではないか、良くなる子もいるかもしれませんが、ダメになる子もいるのではないかと思います。

(委員) 最初の9人学級と34人学級に入ったとき、全然雰囲気が違うことを感じたかと思います。やはり現場の先生方の意見を多いに参考にすると良いのではないか、適正規模が市の施策面での統廃合にならないようにして頂きたいなと思いました。

(委員)、今日の日野春小学校を見させてもらいまして、先生がマンツーマンで教えて頂けるのはいいこととも思えますが、逆に不幸なのか幸せなのか、よくわからなくなっています。今後複式学級などが出てきたとき、スポーツ・バレー・野球などが編成できないとか、競争意識が上がらないとか、そんなことが懸念

されてくるわけですが、今後認識を深めて少しでもお役に立てたらいいなと思っています。

(委員) 良く判らないのですが机とイスは単一なのですか、それとも個人差によって大小があるのでしょうか、将来横綱にでもなりそうな大きな子が、同じ机とイスと一緒に書道をやっていたけれども、あれでは、まともに書けないのではないかと感じました。

(委員) 小規模と適正規模の格差に驚きました。子供はこれだけ違うのかしら、少ないところはかわいそう、多いところは先生が大変そう、やはり先生が20名から30名くらいが適正ではないかと仰いましたが、私としましてはせっかく学校へ出向いたわけですから、学校運営や先生方の面からメリット・デメリットをお聞かせ願えれば良かったかなと思いました。

それから日野春小学校の校長先生がおっしゃったことですが、この児童はとても素直で、優しくて、おとなしい子ばかりですと言っていました、それは小規模小学校のデメリットの部分かなと感じて帰ってきました。

(委員) 人数が多いと大変だと先生達は言うのですけれども、子供達にとってはそんなに大変じゃないですよ。子供達は、子供達どうして磨き合って成長していくのだと言う観点を持っておかないと、適正規模の問題を語れないと思います。先生対子供の関係も大事だと思いますけれど、子供達どうしがどういう環境にあるのか、そこで私はクラス替えが出来る人数がいいと思います。かといって1クラスの人数が非常に多いと先生もそうだし子供達もお互いの交流が図れません。これから審議するときは、子供達の環境を考えていかなければならないと思います。少人数ではきめ細かくできます、それだけが子供達にとって良いことか私はそうは思いません。子供達が磨き合っていける学校規模や学級規模を考える必要があると思います。先生だけが教えるのではなくて子供達どうして学んでいける環境を作ってあげる事ではないでしょうか。

(小泉；副会長) 審議してきましたことと、現場の先生方の意見と比較しましても間違えた方向に行っていないなと思いました。先ほど出ました少人数で、素直で、優しくて、おとなしくて可哀相だと言うのがデメリットで表現されたかと思うのですが、このことを考えるとき親たちも先生達も、私たちも考えを変える機会にしないでいけないのかなと感じました。

少人数がデメリットがあるのであれば対応すべきで、または既に対応していると思いますが、少人数を利用してこんな教育活動をしていますよとか、自信を持って言えたらすごいなと思いました、まだそこまで行っていないのが現状かなと思います。

また大人数だから大変だではなく、大人数を利用して本校ではこんな学校づ

くりをしていますよ、という風にプラスに変えられたら良いのではないかと思います。やはり急には変えられないし、日々のことに追われていると思いますので、これからの適正規模を考えていくときそう言ったことを考えていく、最終的にはこの位の規模になるとと思いますが、北杜市としてもこういったプラスの方向に考えていったらいいと思います。

(委員) 最終的には適正規模と言えば人数で、極端な話しが20人なら20人、30人なら30人で、ぱたっと決めれば議論も何も無いわけですが、委員さん方のお話の中に、是非入れてもらいたいのが適正規模プラス学校数が良いのか、人数が良いのか、地域が良いのかと言う事を適正規模の議論の中に入れて頂きたいのと、学校単位の地域・生活圏単位の地域とどういう風に関わりながら適正規模に持って行くか議論して頂く事をお願いします。

(委員) 私も小学校1年から3年まで比志小学校の時複式学級を体験し、突然高根西小学校へ来て42人というクラスを体験しました。大人になって考えるとき、それも良い経験だったなと思っています。

適正規模を語るとき通学範囲、通学時間とか全てを総合した物で決めていけば、どうしても現在の状況からすれば、統廃合は避けて通れない問題だと思いますので、それに対してあらゆる問題の点から検討して適正規模をみんなで話し合いをして、結論づけて行けば良いと思います。

(議長；小澤会長) 長坂小学校の耐震強度の低さ、柱にヒビがはいった状態は、私の知り合いの専門家によると、かなり弱い震度でも倒壊の可能性があると言っていました。

手を掛けなければならぬ児童の置かれている状況をこのままにしておく訳にはいかないだろう、と言うことを教育長さん以下その点を審議会の意向として早急に対応をお願いしたい。

各学校を歩きまして、そして各委員さん方のご意見を伺って、委員さんの頭の中には、秋葉原の事件や昨日の事件も片隅にあって意見を発表しているなど思いました。と申しますのも少子高齢化の問題は、特に少子化は人類始まって以来の問題でありほとんど論議されていなかった問題であります。最近の事件も深い根本には少子化の問題があろうかと思えます。その点については、テレビ等のマスコミは全然ふれていません、あと一つの原因としてはネット社会です。バーチャルの世界が子供達を蝕んでいると言えます。

少子化のもっとも恐ろしいのは、地域を前提にした小学校のコミュニティーがある訳ですが、家族というのは先ほどの委員さんが仰った様に親と子供だけが家族ではないわけです、親の兄弟、自分の兄弟、従兄弟、祖父祖母、親類縁者がいるわけですが、悲しいかな一番小単位の親と子だけの核家族化では縦の関係だけでありまして、もまれると言うのは横の関係なんですね、それが全く

欠けてしまっていて来ている、それが小学校・地域の中でもどんどん薄らいで来ている、そういう社会が目の前にあるわけです、どういうところで手だてをするか、それは小学校と言う一番基礎を学ぶ所であろうと思います、ですから適正規模という議論は単に数字合わせではなく1人の人間をどのように育てて行くのか、その環境を大人がどう整えていくのかと言うことを、今後も御議論をよろしく御願います。

それでは事務局次回の日程をお願いします。

(事務局) 出来れば8月の最終週8月27日の水曜日午後1時30分からでお願いします。

(議長；小澤会長) P T Aの説明会には委員は出席しなくて良いのですか。

(事務局) 出来れば日程表のとおり保護者の意見も耳に入れながら審議会に反映して頂きたいと思っていますので、出来るだけご都合を付けて御出席願えればと思います。

(議長；小澤会長) それでは、その地区の関係者の委員さんには出来るだけ出席して頂くことを確認させて頂いてよろしいでしょうか。

(各委員了承)

(議長；小澤会長) それでは、副会長さんの方で閉会の言葉をお願いします。

(小泉；副会長) 今日はお疲れ様でした。非常に暑かったのでこの中の快適さはたまらないなと思います。サミットも終わり色々な環境のことも考えなければいけないのですが、我々も少しずつ変わって行かなければならないなと思っています。ご苦労様でした。

—互 礼—

—16時29分終了—